



定額一冊五錢 一ヶ月五拾五錢 三ヶ月一圓二角 半年二圓 一年三圓 郵費在內  
 廣告刊五號十二分 行金五拾錢  
 日曜祭日の翌日休刊  
 發行所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日新聞社 常磐毎日新聞社

深慮と膽力

山里 尚行

東洋平和の盟主として任ずる我邦は、亞細亞大陸の東海に連鎖状態をなす一小國に過ぎず、其内最も重要性あるは南の關門たる臺灣島です。此島は今より約二百八十年前以前は蘭人或は西班牙人等が交々占領し、其國籍さへ定まらず、蝴蝶軍と稱する日本軍人が之を占領せし事あれど、當時の幕府は朱印船を停止して外交を絶ちしかば、海外に雄飛する日本人は勢力頗る衰へ再び蘭人の占むる處となりました。折柄、時恰も支那にて明朝亡び清朝となり、明の功臣鄭成功は再舉を志し逃れて此孤島を占領し爲めに康熙二十二年、今より二百七十五年前、始めて支那の領土となり、是より四ヶ年を過ぎて、次に述ぶる遠東の珍客が此島を訪れました。

より原料を輸入して製造工業化せんとするは現今に於ける臺灣島の趨勢でありませう。

倍々話はずに昔に及び、安政元年六月二十八日、時の幕府井伊大老と、十二箇條の親和條約を結びて豆州下田の港を靜かに出發したのは米國水師提督ペルシーでありました。其發艦に臨み部下のアボット大佐へ命じ、臺灣島東岸に難破失踪せし米國船員を探查救助す可く本國の命を傳へ、且つ臺灣

島の調査を命じ、尙ほ石炭は一噸二十非ならば五十噸十非ならば三百噸の購入を申付けました。同大佐は其翌日二十九日マセドニヤ艦と糧食船サツプライとを操縦し下田を出て、以來蓬萊島の美しさに見惚るゝも東の間、紀洲灘を過ぎ沖繩方面へ差しかるや、大暴風雨に幾日か襲はれ、船は落葉の如く翻弄されながらも七月十一日基隆港に着し、糧食船は途中連絡を失ひ日

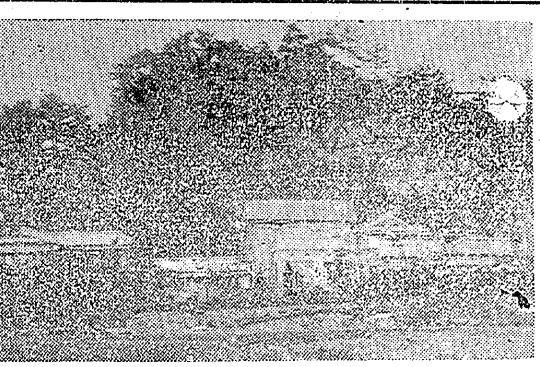
後れ、到着し滯泊僅か十二日間なりしも其間地質地形港灣海圖測量其他の調査を遂げ人命救助は手掛りなかりしも島の宣教師スパイ役にて頗る便益を得、又優良なる石炭一噸僅か三非なれど、漸く頼みて見本に十二噸を買込み、木炭も若干買入れ、(之等は本國に持ち歸りて分析研究す)且つ港灣近く炭坑二ヶ所あるを知り軌條六百呎あれば河より積立りが出来、又二哩半の鐵道を敷かば、一層便利なることも確かめ、本島の頗る有望なることを探查して歸國の途に着きました。



海岸の眞晝

紺青に澄み渡れる眞晝 暑い夏の陽光は 音もなく緑の大海に投げ てるる 遠い彼方の沖合には 煙つたやうあちこちに 白帆が二つ三つ點綴して みる 時折長閑な工場の汽笛が 聞える おの平和だ 静寂だ 海岸の眞晝である

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	
茶	堂	
食	堂	
レ	ス	ト
サ	ロ	ン
平・田町		
電二五三番		



清涼の小瀧へ!!  
 ◇宿泊料 1.50 2.00 2.50 (御滞在は左記料金にて中食料をふくませます)  
 ◇日歸浴席料 20  
 ◇自炊料 50—80 入湯料・室料 夜具料一切  
 ◇料理一定食 80 1.00 1.50 その他一品料理洋食  
 ◇湯 効 神痛・リマチス・胃腸 病・痔疾・婦人病・逆上・中風・肥胖 (内務省東京衛生試験所検定)  
 ◇諸 設 備 撞球臺・高級ラヂオ・大廣 間・讀書室・近代式浴場と洗面所・水 洗式便所・小動物園・タクシー部・御 子様運動器具 魚料理(うなぎ・鯉) 名 物 川魚料理(うなぎ・鯉) 蜂蜜羊かん  
 常磐線湯本驛 小瀧鑛泉  
 御旅館 瀧の湯  
 電話 小名濱 103番

自轉車は左記 有名車を御撰擇下さい 世界的ニ進出セル ◎宮田ノ自轉車 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル ◎ゼブラノ自轉車 實用經濟車トシテ好評アリ ◎マーツ號自轉車 ◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ偽物を販賣なし商權を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了解を得ん 宮田代理店 エビスヤ商店 マーツ代理店 電六六四

藥局開設報告 東京銀座伊東屋特製フランス人形店頭で御目見得致します 何卒皆様御覽下さい 店舗改築中大層皆様に御不自由を相懸けましたか愈々出来上りました一寸目新らしき藥局となりました來る八月より諸大醫處方箋調劑の御相手を任りますれば何卒皆様の藥局として多少に不拘御利用下さい 平町古銀治町(電話四四番)

夜 間 診 療

腸胃 内 科 專 門 院 科 性 胃 村 松 (平町南町一七〇番)

花柳病科 性病科 皮膚科

齒科口腔外科 レントゲン科 原齒科醫院 院長 東京齒科醫學士 原 精一 東京齒科醫學士 柏倉武男 平町土橋通り 電話三一三番

阿康藥舖

# 昨日の雨に

## 萬物生色を帯ぶ

### 坪當り六斗七升餘の大量

石城地方の畑作は水不足に地割れを生じ茄子、大根、トマト等何れも發育不良に陥つて居た折柄昨日午後五時半頃より降り出した驟雨は長時間に亘る黄金の雨となり總べての生物を蘇生させたが神谷農事試験場の調査に依ると降雨量は坪當り六斗七升四合三勺と云ふ近來にない大量であつたと

# 捨身の磐中

## 如何に食入る?

### 強豪福師と血躍る一戦

#### けふは降雨で延期

中等野球東北選第一回戦に米澤中學を一蹴した磐中が今日午前十時卅分より強豪福師と闘ふこととなつたが朝來の降雨でグラウンド不良のため明日に延期となり選手達は脾肉をかちちつゝ一日宿舎に休養した尙磐中對福師の一戦に對する

# 決勝戦迄進み

## 疲労の極惜敗

### 大奮闘の平商庭球部

全國の強豪を網羅した日本庭球聯盟主催第三回全日本男子中等學校庭球大會は一日午前八時より東京市新宿美津和コートで舉行された

が過般の縣下大會に優勝した平商岩佐、本田組の當り物凄く各地代表の精銳を無人の野を行く如くなぎ倒し決勝戦に小田原中學と對戦

### △準決勝

平商四—二小田原 御守渡邊

### △決勝

小田(露木五—三平)岩佐原中(立松)—三商(本田)平商と共に同大會出場の磐中宮川、太谷組は奮戦空しくコート決勝で名古屋商業に四—二で敗れた、尙兩校選手は終了後も金門クラブに殘尙來る廿三四日兩日開催の東北學院庭球部主催北日本庭球選手權大會出場に備へて猛練習中

### △第三回戦

平商四—〇青山師範

### △第四回戦

平商四—一豊島師範

### △第五回戦(コート決勝)

平商五—三宇都宮商業

# 忠臣藏に因んで

## 四十七名の委員

### 指定村の鹿島村で

#### 更生案の樹立を急ぐ

既報本年度經濟更生村に指定された鹿島村は本年中に更生樹立案を建て明年度早々實施する事になつたので志賀村長は忠臣藏四十七士に因んで委員の數を四十七名とし此程任命したがこの委員中の十五名に同村の中堅青年を加へ新時代に即した息を樹立案に吹き込む事となつた

# 智山佛教

## 青年協會設立

平窪村常勝院住職野尊如

時から小學校に三十餘名の更生委員參集更生計劃案の樹立に就いて協議會を開く

# 昭和人絹の貨物

## 一切植田物産に

錦村昭和人絹工場の操業状況は愈々本格的となり目下一日十軒以上の優秀人絹を生産して居るので同工場は貨物の一切を植田物産會社に取扱はせる契約を行つた

# けふの温度

平郵便局	八四
平警察署	八三
平第一校	八三
平刑務所	八二
平事務所	八二
平第一校	八二
庶民金庫	八二
常陽銀行	八二
農工銀行	八二
七十七銀行	八二
磐炭發電所	八二
機關部	八二
配電盤	八二
事務所	八二

# 平町人事

△研町北川鶴吉氏五男治男 回出 生  
△六間門田島ハツ(四八)さん 回死 亡  
△立町當時大阪市東淀川區 本庄東通一丁目瀬谷セツ (三ツ)さん

# 家庭拜神週間

## 石城神職會の宣傳

想を一層普及する爲め本月一日より一週間を家庭拜神週間とし宣傳ビラ三萬枚を配附し郡内各町村で宣傳を開始した

# 市原醫院

平町・田町  
電話一四四番

# 石炭一〇〇パーセント

## サーヴキス

# 値下げ!

時節柄  
ダンゼン  
一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢  
特塊同 金參拾五錢

品質が優良  
目方か正確  
デナケレバ  
高イモノニナリマス

◎市内は一俵より配達致します  
の此点は當店を絶對に御信用願ひます

電話三七番



石炭  
豆  
コークス炭  
阿部石炭商店

産人科 院長 木村寅次郎  
婦人科 醫學博士 内木宗八  
外科 藥劑師 立番彌一

平町新川町十九

病室完備  
入院隨意  
木村病院

電話一六四番

毎度有難うございます  
野菜サラダ  
ピフテキ  
洋食  
喫茶  
會  
コンパル  
TEL.666

# 田圃のあぜ道で

## 主従二名が感電

### ダラリぶら下つた送電線

#### △兩名共に大火傷

飯野村大字上高久字菅田農  
鈴木ミキ(五)は昨日午後  
七時頃野良仕事の歸途同村  
宇五反田地内畦道の中央に  
切斷した東部電力會社の百  
ボルト送電線がブラ下つて  
居たのを刎ね除け様とし兩  
手で掴んで感電し人事不省  
に陥り後から来た雇人の山  
本泰太(七)が助けようとミ  
キの體を抱き起した爲め同  
人も忽ち感電兩手に大火傷  
を負ひ大聲を上げて救助を  
求めたので附近の者が駆け  
付け直ちに兩名を新川町諸

橋外科醫院に收容したがミ  
キさんは全治二ヶ月、山本  
さんも三週間を要する大火  
傷である

#### ラデオ體操

平町民  
本日の人員 ラデオ  
體操の本日の参加人員左の  
如し

△第一會場、第一校兒童  
八〇三、第二校兒童一〇  
二五、一般二二九△第三  
會場、兒童八七一、一般  
五〇五、合計三四三三名

# 祖國日本の

## 徴兵検査に

### 日本字は書けぬ

#### ハワイ生れの青年

郡内壯丁検査は去る廿九日  
より平第一小學校講堂で開  
始されたがけふ日本と米國  
の兩國に國籍を有する壯丁  
が検査を受けた

× ×  
信夫郡岡山村大字山口字行  
都十七安田勤一君(三)は今  
より卅五年前渡米した父金  
之助氏の第二世で懂れの故

國觀光のため生れて始めて  
去る四月十六日横濱へ入港  
し一路故郷へ戻り前記岡山  
村役場へ歸朝届けを出しハ  
ワイに生れて米國に國籍を  
有する同君ではあるが祖國  
日本のため欣然遅れ馳せ乍  
ら本郡の検査に参加したも  
のであると、尙同君は日本  
字は全然不明で學術検査の

# 女狂ひの

## 亭主に

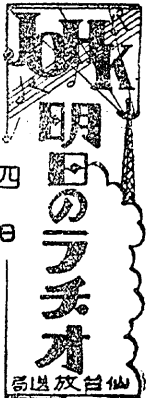
愛想を盡かし  
女房行衛を侮す

湯本町字日渡六十生れ東京  
府下豊島郡下井草町金物商  
川元勝五郎の内縁の妻齋藤  
ハルヨ(三)は亭主が女狂ひ  
をして家に寄り付かぬので  
本月一日家出した儘行衛不  
明となつたが同人の妹長田  
ヨネさんは心配して平署に  
捜査方を願ひ出した

# 大審院で

## 罰金刑確定

平町番匠町三川島八雄(三)  
を責任者として昨年四月廿  
六日水郡線建設工事中砂利  
運搬車が東白川郡棚倉町地  
内小屋川に墜落三名即死六  
名重傷者を出した事件は白  
河裁判所で無罪となつたが  
検事控訴により福島地方裁  
判所では罰金二百圓の有罪  
となり不服上告し大審院刑  
事四部宇野裁判長係りで審  
理中昨日上告棄却され罰  
金二百圓と確定した



明日のラデオ  
報豫氣天  
今晚は南東の風  
明日は南西の風  
晴曇半す

#### 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 「ラデオ遊び貝から遊び」
- 井上義孝
- 後六、二五 科學趣味講演
- 「極く冷たい話」鈴木庸生
- 後七、三〇 食後の音楽ト
- リオサンドリオン
- 後八、〇〇 落語「酒の言
- 葉」柳家金語樓

#### 洋食組合が

平町西  
けふ慰安會 洋料理  
業組合の従業員慰安の海水  
浴は今三日午前九時自動車  
に分乗小名濱海岸へ出發マ  
ランその他の運動競技或  
はコックさん選抜隊の角力  
等で海濱は黒山の様な見物  
人が集つた

#### 玉川蔬菜講習

玉川  
村青年團は来る五日午前九  
時より小學校に神谷農事試  
験分場の矢ヶ崎技手を招ぎ  
秋蒔蔬菜の講習を受けると

# 駒場大尉との別れを 惜む商友會の送別會

## 母校生徒の氣質が一變した 出發は九日頃の豫定

平商配馬將校駒場大尉は今  
三日附官報で原隊の仙臺工  
兵第二聯隊服務を發表され  
た、尙後任は同隊附工兵中  
尉佐藤今朝二郎氏であると  
因に駒場大尉の出發は九日  
頃の豫定であるが同大尉赴  
任後平商生の規律訓練が一

- 後八、三〇 長唄 吉原雀
- 松永和風外
- 後九、〇〇 時事解説「其  
後の伊エ關係」法學博士  
林毅陸
- 後九、三〇 時報 ニュー  
ス 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- 後九、三〇 神詣農祭神社

#### 度量衡の検査

郡下  
の度量衡器の検査は去る  
一、二兩日の四倉町を皮切  
りに三、四日は湯本五、六  
日小名濱、七、八日は江名  
の各役場で行はれる

#### 一寸借り失敬

永戸  
村大字下永井生れ無職阿部  
市信(三)は去月十一日平町  
六丁目熱心湯から夕方迄に  
返済すると稱し十五圓を借  
受けて未だに返済せぬので  
告訴され目下平署で取調中

- と野田神社山口市豊榮
- 田神社中繼
- 前一、〇〇 日曜勤行誓願
- 寺假本堂中繼京都
- 前一、〇〇 宗教講話
- 「平凡な道に就ての工夫」
- 大原性實
- 前二、一〇 趣味講座
- 「仙臺地方の昔の七夕」長  
沼一馬
- 後九、五〇 滿洲より夏の  
スガリ一松花江太陽島  
水泳場付近中繼ハルビン
- 後一、二〇 中等學校野球
- 戦東北豫選福島市營グラ  
ウンド中繼
- 後六、〇〇 子供の時間

#### 平職業紹介所報告

- △求人求める方
- △店員 二十才 尋卒 給
- 料面談
- △出前持 十七迄 月五
- 六圓
- △製材工 十七迄 尋卒日
- 給三十錢
- △女中 二十才 尋卒 月
- 五圓
- △回職を求むる方
- △女工 三十九才 尋卒
- △湯屋三助 二十六才 尋
- 卒
- △職工 十四才 尋卒
- △會社員 二十一才 高卒

御新盆の御用意下サイ  
御戒名入提灯..... 特製秋草。蓮花  
其他御コノミニ依り スソ模様スレ  
岐阜提灯各種.....  
カナラズ良ク安ク御願ヒ致シマス。是非御下命下サイ  
平四丁目 スガノヤ提灯店 電 9 5

難波 内科一般 難波 陸

醫學博士 看護婦募集

平町大町新川端 電 五〇〇二





# 明治太平記

(上段及上段)

(作) 寺島在史  
(監) 寺島在史

第九十二回

空葛籠(九)

『え、それにはいろ／＼のわけがあるの。だから、大志賀さんにも會ひたいけどウエルズからも離れたかないのよ』

『うむ、悠張つてるなア：ちや、やつぱり、ウエルズと支那へ行くことにして、そのことを大志賀さんに言つてすりやい、ことになるなア』

今度、人足體のが腕こまぬいで考へ込んだ。

『しかたがねえ……ちやアふたをするか』

芳三郎は、歎息した。

『しかし、待てよ』

人足體のが急に明るい顔をした。

『妙案があるのか』

『あるとも、あるとも、つまり兄弟、てめえ、このらしやめんさんを連れて逃げろよ』

『てめえ、どうする？』

『おれア、そのあとで、パークスとウエルズが話合つてをる室へ駆込むんだ』

『へえ、どんな芝居を打つか』

『つまり、駆込んで斯う』



那へ連れ出すことが、一べんにばれるといふ寸法だするていとパークスめ烈火の如く怒つて、ウエルズにつかみかゝりウエルズもまたおとわに逃げられてはいまさら支那へは往けまい……

『返して？……それはおれのいふことなのだ。おとわを出したまへ』

『おとわは、わたくしのものです。あんたが、函館入りの御用商人にさし圖して、この室から連れ出さしたのです。返してもらひませう』

『黙れ？ 君がおれからぬすんだのちや。ベキンへ連れていかうといふのだらう……おれ日本の下僕、おまへがウエルズのおさし圖でおとわをこのつづらの中へ押し込み蒸気船へ積込もうとしたにちがひないか』

パークスは人足體の男にいつた。

『へい、それにちがひありません』

『おとわを、この室から連れ出したのも、やはり日本』

なアるほど、そいつア妙案だ』

空つづらを取まいて、公使パークスと、武官のウエルズとが對立してをる。

冷たい、むしろ、深淵のやうな恐ろしい沈黙……

おとわの逃亡を告げた。らしい人足體の男は、やがておのれに迫るであらう紅毛人の慘虐を覺悟しながらふたりの、けだもの、對立が、どういふ結末になるかを思ひどけようといふ好奇心心、合棒の芳三郎に、結果を知らしてやりたいといふ自發的な責任感から、おとわのいけだもめたちの

の下僕、おまへの仲間か』

『へい、まつたくその通りです』

『ウエルズのおさし圖だらう……』

『はい、あんたが、來られたもんだから、ウエルズさん事面倒だとおもつたんでせう。合棒にはやくおとわをかくしてくれと命じましたがちがひありません』

産名城磐

味美貝焼

鯉しほから

新鯉節大賣出し



店理代命生本日本大最優最  
榮盛賀丁四平  
(三一電)目

## 増車御披露

陸の王者として定評ある流線型ダツチブラザーズ二輛増車致しました。タクシーの御使用の際は新車揃の尼子タクシーに御用命を御待致して居ります。大型貸切専門車も御座います。

尼子タクシー  
電話六四〇

一、齒科一般  
一、工科 齒列矯正科  
一、口腔外科 小兒齒科 齒槽膿漏科  
一、レントゲン科

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次  
日本齒科 醫學士 西川 誠

保存科補綴科 繼續架  
小兒齒科 齒槽膿漏科  
平町田町(松月堂向ヒ)  
電話五〇九番

## 吉田眼科病院

平絹屋町電話六八番

醫學士 吉田 久雄

## 開院廣告

新益用佛壇具卜位牌ハ  
山光堂佛具店へ  
平四丁目局前  
造花博士 花信  
電話五五〇番

祖先崇拜ハ家庭繁榮ノ礎!!!

今般左記ノ場所へ齒科醫院開設致シ去ル六月廿五日ヨリ齒科一般診療ノ需ニ應ズ

診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ

場所 平町北白銀町機關庫裏

## 東條齒科醫院

日本大學 醫學士 東條 守義